

「薪神楽」鑑賞会



御嶽神社には昔から引続いて行われている神楽が十四座残っています。この神楽は二回に伝えられたといわれ、第一回は寛延二年（一七四九年）第二回は安永九年（一七八〇年）に伝わりました。日本では何かその土地の御祝い事があると神楽・獅子・獅子舞等の余興をしますが、御嶽の神楽は余興ではなく信仰の宗教儀式の一部をなしているのです。それ故この神楽を舞う人達はこの山の神職が代々世襲しており、これを習得するのが、義務の一つとなっております。

第一回の薪神楽は平成3年の6月ケープルカールのレール交換で運休の折行われましたが、この度二回目を各界の深いご理解とご支援により、十月八日（日）の夜に行われます（来年からは毎年十月の第二日曜日の夜を予定）。秋の夜長、かがり火に闇夜の中から神楽舞台が浮かび上がり、幽玄な世界にあなたをいざないます。

『ちのわ』夏越大祓式

「みな月のなごしの祓いする人は、千歳の命のぶと言なり」茅の輪くぐりは、大祓式のある六月二十日に行われている。

約二メートルの茅の輪は、神社職員十五人が前日茅を刈

り宝物殿前の広場に作成した。紙の人形（形代）を身体に撫で付けて穢を託して茅で作った輪を三回くぐり無病息災を祈る。形代は大祓詞を奏上している祭りの間に茅で作られた船に入れられ、後に川まで運ばれ形代流しが行われた。

「文化講座」と「雅楽と神楽の一般公開」に参加者で賑わう

九月十四・十五日の両日御嶽山文化講座が日本風俗史学会員齋藤慎一先生を迎えて行われた。この講座は三月、九月の年二回で恒例になっている。

十四日午後八時より御岳ビクターセンターで「御嶽神社の大鎧について」一時間半講演が行われた。翌朝九時神社宝物殿で赤糸威大鎧・紫裾濃大鎧の前に日本の鎧の見方・鎧の違い等の説明を受けた。十一時からは雅楽の演奏と巫女舞・神楽が次々と舞われ講座参加者、行楽の親子連れ等で神楽殿に入りきれないほど見学者があつた。

あとなぎ

○今年の夏は連日の猛暑が続き、蟬の声やけに大きく感じました。夏が峠を越すとカンタンの鳴き声があった所で聴くことが出来ます。武州みたけを添えておとどけ致します。

○講社の方、一般からの投稿を歓迎します。短歌、俳句などなんでも結構です。皆様方のご近況をあわせお願いいたします。（片柳記）

平成七年十月十五日発行

〔非売品〕

編集 武蔵御嶽神社

☎〇四八七八〇五〇〇

印刷 株式会社印刷

表紙写真 埼玉県和光市 末棟 義彦